

国 語

●平成 30 年度の取組の方向性

中・高を通して、どのような資質・能力の育成をしていくか、また、そのための手立てなど研究の方向性を考えていくため、中学校、高校においてそれぞれどのような授業が行われているかをお互いに参観し、その授業の目的や内容について共有する。

平成 30 年 11 月 6 日（火） 坂出高校授業公開

研究の概要	
<p>○ 単元 『枕草子』（「中納言参りたまひて」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敬語をヒントに作中の登場人物とその関係を把握した上で、この作品のおもしろさがどこにあるのかについて考える授業。 <p>○ 本時のねらい等（指導者より）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は与えられた課題には取り組むが、やや積極性に欠ける。予習においても教科書ガイド等を写してくる生徒もいる。本当の意味での力を伸ばす授業の工夫が必要だと感じている。 	
感想など	課題点など
<ul style="list-style-type: none"> ・敬語という難度の高い文法事項を扱っていたが、話者や動作主を推測するために敬語の情報が使えるのだということが、生徒にとって腑に落ちたのではないかと感じた。古典嫌いを増やさないために、今回のように意図的に文法の知識を読解に使わざるを得ないような授業展開を工夫することは大切だ。 ・中学校では難しいと思ったら現代語訳を用いる。高校では学ぶ知識が多いし、現代語訳もできないといけないので、大変だと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて高校の授業を見た。中学校では音読み、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことや現代語訳など手掛かりに大意をつかんで、古典に表れたものの見方や考え方を知るところを主に行っている。予習で古典文法などを調べて自分で訳をとっていくという授業は高校ならではのものと感じると同時に、中学校とのギャップは大きいと感じた。

平成 30 年 11 月 21 日（水） 附属坂出中学校授業公開

研究の概要	
<p>○ 単元 『竹取物語』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作者がすばらしいと思っているのは「地上の世界」と「天上の世界」のどちらかという問いと、作者は地上の世界をどのように捉えているのかという問いについて考えさせ、作者の意図を考える授業。 <p>○ 本時のねらい等（指導者より）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・35人中24人が「古典が嫌い」と感じている。当時の人の考え方が現代の私たちにも通じ、共感できるものであること、また文章をじっくりと読み、意見を交流することで作者の考えに触れ、古典が身近なものであることを感じて欲しいと願っている。 	
感想など	課題点など
<ul style="list-style-type: none"> ・本時で主に扱う場面だけでなく、これまでに 	<ul style="list-style-type: none"> ・抽出生徒を想定しての授業観察は高校では一

<p>学習した内容にも立ち返らないと考えられないように問いが設定されていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の読みの変容が見えた。人間の醜さもあるけれど、一方で人間らしくておもしろい、奥深いというように読みが広がっていた。 1年生では、生徒同士の対話を引き出してやる手立てが重要となってくるのではないかと思った。 	<p>一般的ではないが、授業が生徒にどのような変容をもたらすかについて観察でき、授業改善に向けての議論が焦点化できるため、高校でも取り入れたら良いと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 古典が嫌いと感じている生徒が思っていたより多かった。高校の国語科においても古典嫌いは解消すべき喫緊の課題であるので、中学校と連携し、古典を好きになる取組を考えないといけないだろう。
--	---

平成 30 年 12 月 12 日（水） 丸亀高校授業公開

研究の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 科目・単元 現代国語B（2年）評論「メディアと倫理」 <ul style="list-style-type: none"> 資料に示された二つの事例の内容を適切に整理して、発表することを通して、メディアの発達した社会における課題と可能性について考えを深める授業。 ○ 本時のねらい等（指導者より） <ul style="list-style-type: none"> 学んでいる事柄について「理解したい」「考えを深めたい」という思いが強く、意欲的に学習に取り組む集団である。個別の学習活動、グループ活動のいずれにおいても積極的に活動する様子が見られる。ただし、文章読解において、細部にとらわれ、全体の構成や論理が意識できず、文章の核心をつかむことができない場合がある。主旨を捉え、全体の流れの中で文意をつかむ意識をもつことが今後の課題である。 発展学習では、高校生にとって身近なソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）等を題材として扱うことで、文章の内容について、さらに理解を深めさせたい。 	
感想など	課題点など
<ul style="list-style-type: none"> 読み比べは中学校の授業でも実施しているが、高校では扱う文章の難易度が格段に上がっているという印象があった。学習課題の工夫でテキストの難しさを補い、学びへのモチベーションを生み出している授業だと感じた。 小・中学校でも、自分の意見を述べる学習の際に論理的な文章構成の基礎的な内容を学習しており、これまでに身に付けた資質・能力をベースとして高校での学習内容がスムーズに積み上がるように工夫できたら、生徒にとって学びやすいのではないかと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数のテキストの読み比べを行ったり、複数の情報を比較したりすることによって読みを深める力は、これからの社会で不可欠の力であり、国語の授業の中で積極的に育成していく必要があるが、適切なテキストを探すことにはかなりの労力がかかるため、何か対策が必要である。 例えば、複数のテキストの読み比べ等の言語活動を充実させようとする、教材開発に時間がかかるようになるのは必然である。高校の授業づくりに関して、これまでは授業の担当者がその責任で行うという傾向にあったが、これからは国語科教員で協働して行い、共有していくような文化を根付かせていく必要があるかもしれない。

研究の概要	
<p>○ 単元 「レモン哀歌」（高村幸太郎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「レモン哀歌」と「lemon」（米津玄師）を読み比べ、それぞれの主題について考える授業。 <p>○ 本時のねらい等（指導者より）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「二つの詩の『レモン』は同じか、違うか」という学習課題について、自分の根拠を挙げながら同じところ、違うところの確認をし、共有することを通して、「レモン」の象徴するものについて自分の考えを深める。 	
感想など	課題点など
<ul style="list-style-type: none"> ・「レモン」に対する個のイメージを投影した読みをしている生徒が見られたが、グループで話し合う中で、妥当性の吟味が行われていた。 ・「lemon」（米津玄師）と読み比べることが「レモン哀歌」を読み深めるための効果的な仕掛けとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの生徒も本文の中で根拠となる具体的な表現を挙げながら自らの意見を述べようとしており、指導が徹底されていると感じた。中・高の学びのスムーズな接続のためには、このような中学校での学習を踏まえて、高校においては、根拠と意見の妥当性の精緻な吟味等、次の段階の学習を計画していく必要がある。

●令和元年度の実践の方向性

新学習指導要領への対応という観点から、丸亀高校国語科が推進しようとしている根拠にこだわりながら、読解や意見形成することと複数の文章を読み比べる言語活動の充実を研究テーマとして取り扱う。中学校の教員からは、研究テーマに対して中学校での実践の中から助言を受けながら、各発達段階における国語科教育の充実に向けての知見を得る。

研究の概要	
<p>○ 単元 文章「雑説」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載された作品（千里の馬）を読解した後、「雑説」の他の章段を読解し、喩えられているものから主張を読み取ることで読みを深める授業。 <p>○ 本時のねらい等（指導者より）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に考えさせて、自分で根拠に基づきながら内容を取り、主題に迫ると言うことを普段から心がけているが、本文の根拠に基づかずに主観で内容を取ってしまい、そのまま自分の考えに置き換えてしまう生徒がいる。 	
感想など	課題点など
<ul style="list-style-type: none"> ・どこまで筆者の理論として書かせていくのか。本文では微妙な関係性について論じているが、そこまで取らせたかったのか。中心部分を書くために切り取って集約するが、その集約の過程はあまり出ていなかった。論理的文章だと思うのでそれを取らせるのも 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとっては入学したらすぐ「古典に親しむ」レベルではなく高校のペースで授業が進んでいく。中学校から高校への学びの転換期で振り落とされない方法についても考えていく必要がある。 ・中学校では『竹取物語』『矛盾』『徒然草』『平

<p>面白かったと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「雑説」は昔2年生で扱っていた難しい教材。1年生のこの時期には難しいと思う。今日は最後に4つの話とつながったところで、生徒は文章を自分で読んで学べたという達成感を得られたと思う。難しいことをやらせるのは勇気がいるので躊躇するが、こういう取組が大切ということを勉強させてもらった。 	<p>家物語』『奥の細道』『論語』など、とにかくリズムに慣れることが目標なので暗唱をさせている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校で古典に親しんで、高校でその部分は保ちつつ、内容の深さに面白みを感じられるよう工夫をしながら、古典嫌いを減らしていかなければならない。
--	--

令和元年12月18日（水）丸亀高校成果発表会

研究の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 成果発表会（高校）「玉勝間」 <ul style="list-style-type: none"> ・「学び」をテーマとした3種類の古文を読み比べ、複数の情報を比較、整理し、テーマに関する自らの考えを形成して表現する授業。古典分野（国語総合）において、教材を分析、評価し、価値付ける活動を取り入れた。 ○ 本時のねらい等（指導者より） <ul style="list-style-type: none"> ・正しい読みとともに文の捉え方についても視点をもたせ、読むことを通して、何が自分の中に生み出せるのかという素養を古典で育てたいと考えている。 ・生徒には意見をもつことを3段階で考えさせた。3人の異なる人物の文章を読んで、まずは個人で主張を捉え、2段階目では、それを班で共有しながら、仲間の意見から読みを広げるようにした。3段階目は「今の私が読んでいる」ということを自覚することによって、現代に置き換え、別の視点に置き換えられることをねらった。 	
感想など	課題点など
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中、他の単元で学習してきた資質・能力を活用する場面が見られ、資質・能力が意識的・系統的に育成されつつあることが見て取れた。 ・「学ぶ」というテーマが生活や生徒の体験と結びついていてよかった。 ・中学校では自分と重ねさせることが多い。高1なのでそれでもよかった。 ・中学校でのやり方として、3人の作者のイラストなどを板書で効果的に使うとか、意見を書かせるワークシートに字数制限等を設け、意見が散漫にならないようにするなどがある。 ・振り返りでの個人の意見の出し方の工夫として、「共通点と相違点をまとめさせる」「どれが一番共感できたかを書かせる」などの視点をもたせたり、段階を踏ませたりしながらまとめるのもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの文章を並べて比較する、しかも古文で行う、というのは難易度の高い学習であった。中学校だと2つの文章の比較は行っているが、それも教師がヒントを与えながらのこと。その中学3年生が高校1年生になってここまでできるようになっていることが素晴らしい。グループ討議にもあったが、3つの中でどれが1番共感できるのかを書かせると文意が自分の中に落ちてくると感じた。中・高でやっていることには差があるが、そこを埋めながら接続をさらに進めたいと感じた。 ・道徳的な意見に偏りがちで、この後の批判的な思考への取組にはさらに手立てが必要かもしれない。



質問タイム



班での協議



板書



考察タイム

●成果と課題

中学校で何を、どのように学んできたのか、また、中学校の学びが、高校でのどのような学びにつながるのかを相互に認識することの重要性が確認できた。高校では、育成を図る国語を理解する力や国語で表現する力がより高いものとなり、教材として扱う文章の難度も一気に上がることから、中学校の授業とのギャップを埋めるための工夫を考える必要がある。古典に関しては、中学校において古典に親しみ、古典を学ぶ意義や楽しさをしっかりと身につけることに加え、高校段階では、語彙・文法指導に終始する傾向を改め、他の文章との比較等を通して、生徒の知的興味や関心を高める等の工夫が有効であった。